

2020年4月17日

学生の皆さんへ

学長代行 半谷俊彦

オンライン授業の導入にあたって

和光大学では、新型コロナウイルスの感染問題が明らかになって以降、何とか通常に近い形で授業を実施できないか検討し、二度にわたって授業の開始を延期してきました。しかし、感染拡大は4月になってからその勢いを増しています。4月7日に日本政府が発出した緊急事態宣言は5月6日までを期間としています。その間に感染拡大が収まるとは考えられません。その後もしばらくは、2メートル以上の距離を保たなければならない状況が続くと思われます。そうしたことから、和光大学では、前期の授業を原則として全てオンラインで実施することに決定しました。

和光大学は、「教員と学生の距離が近い」といわれています。学生が教員の研究室を訪ねやすい雰囲気がある、プロゼミなど少人数の授業が多い、先生方が公式・非公式に学生とともに様々な活動を行っている、そして何より、先生方が学生のことを日ごろから親身になって考えていることなどがその理由です。そうした和光大学にあって、学生の皆さんと顔を合わせて授業をすることができないことは、最も避けたいことのひとつです。先生方も大変つらく感じておられます。

また、和光大学は「自由な研究と学習の共同体」であることを理念としています。学生の皆さんが自分のしたい勉強をしてこそ、自分のしたい活動をしてこそ、成長があると考えているからです。しかし、授業をオンラインで実施するにあたっては、実技を中心とする科目など、一部の授業を休講とせざるを得ません。受講者数を制限しなければならない授業も増えます。学部・学科を超えての履修が認められないケースも出てきます。また、図書・情報館をはじめ大学施設の使用が制限されたり、課外活動が制限されたりします。こうしたことは、大学が大事にしている理念に反することであり、大学としては本当に不本意なことです。

しかしながら今回は、学生の皆さんとご家族の安全を第一に考え、このような方法に踏み切りました。前期に予定していた15週の対面授業（教室や運動場で行う通常の授業）は、12週のオンライン授業と3週分の課題学習に置き換えられますが、授業内容は保障します。むしろ先生方は、教室という空間的制約や時間割による時間的制約が外れたことを活かし、これまで以上に深く学ぶことができる授業を展開できるよう、様々な工夫を考えて下さっています。皆さんも、先生方の熱意に応え、積極的、能動的に学習や研究に取り組んで下さい。この困難を乗り越えることで、皆さんがいつそう成長することを願っています。

以上